

# 不整脈センター

## ● スタッフ (2020年10月1日現在)

センター長 里見 和浩  
副センター長 矢崎 義直

医師数 常勤 6名  
非常勤 3名

臨床検査技師 1名  
臨床工学技師 2名

近年、不整脈診断・治療技術の発展により多くの不整脈治療が可能となってきました。

当院では、最先端の治療技術を取り入れ、安全性を重視したクオリティの高い不整脈治療を行なってきました。さらなる不整脈診療の向上と、実地医療の先生方とのより密接な医療連携を目的とし、2017年10月に東京医科大学病院不整脈センターを設立いたしました。

## ● 当センターの特徴

我々は最新の技術と積み重ねた経験を駆使し、全ての不整脈の治療を行っています。特に心房細動の根治治療であるカテーテルアブレーションの件数が著しく増加しています。(図1)。国内外からも高い技術と安全性が評価され、国内3施設のみであるアジア不整脈学会認定の教育施設として認定されています。

新病院に不整脈治療専用カテーテル検査室を配置、医療スタッフも増員し、ますます不整脈治療を発展させております。

不整脈のメカニズムを解析する3次元マッピング装置は、国内で認可されている3つのシステム(CARTO、Ensite、Rhythmia)の最新機種をすべて有しています。安全性を高め、治療効果を上げることが可能な、コンタクトフォースセンサー付きの高周波カテーテルも使用し、合併症の軽減に努めております。心房細動アブレーションの手技時間を短縮し、高周波エネルギーと同等の効果を上げているバルーンアブレーションは持続性心房細動への適応が広がり積極的に使用しています。

新たな心臓植え込み型デバイスである、リードレスペースメーカー、完全皮下植え込み型除細動器など、多くの高度な最新治療を他施設に先駆けて行ってまいりました。失神、潜因性脳梗塞の原因精査に用いられる植え込み型ループレコーダーの植え込み件数は全国的にも有数の施設です。

心房細動患者さんの心原性塞栓症の予防のための新たなデバイス、経皮的左心耳閉鎖術も可能になっております。

これからも安全かつ確実な不整脈治療を患者様に提供できるよう努力してまいりますので、今後ともぜひよろしくお願いいたします。

図1. 2010年からの手術件数の推移

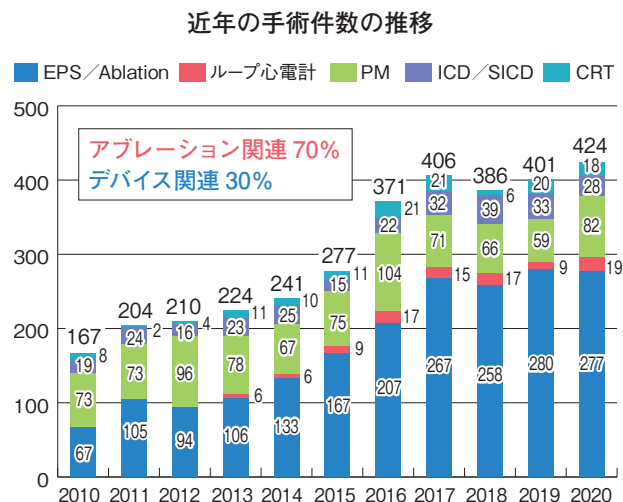


図2. 三次元マッピング装置による複雑な心房頻拍のマッピング

